

2004年4月20日

川端望

第1章 はじめに

第2章 開発と生産のプロセス分析(4/27)

ビジネス・プロセスのとらえ方には、開発 生産と原料調達 生産の二通りがある。両者の関係はどうとらえられるのか。また、消費者にとっての情報と開発者にとっての情報はどのような関係にあるか。情報システム論にもとづく藤本自身の見解を正確にフォローした上で考えよ。(2名)

山本潔『日本における職場の技術・労働史』などを読み、工程レイアウトの四つのパターンについて、それぞれが用いられるのはどのような場合なのかを考えよ。あわせて、四つのパターンの歴史的関係を考える。単線的な進化なのか、並列的な類型なのか、もっと複雑な関係なのかを考えよ。(2名)

第3章 製品と工程の歴史分析(5/25, 6/1)

以下のいずれかについてA4×3-6枚(シングルスペース)程度のレポートを提出せよ。(全員。3名ずつくらい)提出期限:5月19日までにメールで送るか研究室に持参すること。

ハウンシェル『アメリカン・システムから大量生産へ』などを読み、フォード社が確立した大量生産が技術的・社会的にみてどのように、またどの程度画期的なものだったのかを考えよ。

藻利重隆『経営管理総論(第2新訂版)』、坂本清「F.W.テイラーによる熟練の分解過程と管理システムの形成(1)(2):F.W.テイラーとH.L.ガントの管理論比較研究(1)」などにより、テイラー・システムの様々な側面のうち、何が核心なのか、それは今日まで継承されているのかについて考えよ。

80年代のアメリカ製造業に対する診断について、クラーク/アバナシー/カントロウ『インダストリアル・ルネッサンス』、ピオリ/セーブル『第二の産業分水嶺』、鈴木良始「アメリカ大量生産システムの成熟と変容」などを読み、整理しつつ自己の見解を述べよ。

第4章 競争力とその構成要素(6/8, 6/15)

第5章 コスト・生産性の管理と改善

以下の二つのうちどちらかについて、因果関係を整理したレジюме、図表か小レポートを作成せよ(全員)。

松崎義『日本鉄鋼産業分析』を読み、どのような技術や管理の革新が生産性向上とコスト低下に寄与したかを明らかにし、戦後日本鉄鋼業の発展要因を考えよ。

Crandall, The U.S. Steel Industry in Recurrent Crisis を読み、アメリカ鉄鋼業が日本鉄鋼業に対して競争劣位に追い込まれた要因を整理せよ。

第6章 納期と工程管理(6/22)

(未定)

第7章 品質とその管理・改善(6/29)

清しょう一郎(「しょう」は日に向)「あいまいな発注、無限の要求による品質・技術水準の向上」を読み、日本企業の品質管理が日本社会の特質とどのように結びついているかを考えよ。

第8章 フレキシビリティ(7/6)

(未定)

第9章 生産戦略(7/13)

収穫逡増の様々なパターンについて説明せよ。収穫逡増がはたらくことの経済学的意味を、競争と独占、効率性の達成、資源配分の最適化などの観点から考えよ。また、収穫逡増を活用した経営戦略の方向性を考えよ。

以後未定